

信州発・これからの図書館フォーラム第11弾 実践編  
**平成29年度松本市学校司書研修アンケート**

(※自由記述箇所のみ)

■ **研修参加動機（一般参加者のみ）**（※末尾の人数は同内容の回答者数）

【経験年数による理由】

- ・司書としての経験がないので勉強したかった。
- ・経験年数が0年（もしくは少ない）ので、少しでもいろいろな情報を得たいと思った。（2名）
- ・異動後すぐだったので、小学校の選書に悩んでいたため。

【プログラムによる理由】

- ・プログラム内容に魅力を感じた・興味をもった・役立ちそうだった。（13名）
- ・選書について学びたいと思った。（4名）
- ・知識を得たかった。
- ・学校司書として、より良い図書館経営の参考になると思った。（2名）
- ・図書館を使っでの授業、その選書の視点というものをぜひ伺いたかった。
- ・授業支援に取り組んではいるもののまだまだ充実していないので、もっと勉強したいと思った。（2名）
- ・調べ学習としての学校図書館の運営に行き詰っていたので参加したかった。
- ・他地域の司書がどのように活動、実践しているのか知りたかった。
- ・宮澤先生の取組みを知りたかった。

【開催形式による理由】

- ・松本市の学校司書が市費採用になって初めての研修会ということで興味があった。（2名）
- ・自分たちが作る研修は多々あるが、市教委・県立図書館のプログラムは初めてで興味をもった。
- ・市外の研修にも参加して勉強したかったのと、夏休みに入り参加しやすかった。（2名）

【紹介・代表での参加】

- ・（所属自治体の）学校教育課や、上司（校長・教頭）からのすすめ（4名）
- ・他の学校の先生に誘われた。
- ・事務研図書館部会の研修として、代表で参加した。

【公共図書館からの参加】

- ・学校連携をより良いものにするため、学校図書館の現状を知りたかった（2名）

## ■ 講義・ワークショップ等について「印象に残ったこと」がありましたら ご記入ください。

### 【長谷川講師への感想】

- ・長谷川先生の御講義で「今なぜアクティブラーニングなのか？」というお話がとても印象に残りました。新学習指導要領、読もうと思います。宮澤先生のお話はとても実践的で明日からの業務の参考にさせていただきたいと思います。お2人とも学校図書館への熱量がすごくて大変刺激を受けました。
- ・アクティブラーニングの意義について、学習に積極的に主体的に…くらいのものだと考えていたが、社会の変化を見越した十数年後を想定したものだと思い納得した。
- ・社会があまりに早く変化している。先がわからない社会で子どもたちは生きていかななくてはならない。そのためにアクティブラーニングが必要。
- ・「殻に閉じこもっていないで一步踏み出して外に出る」選書にしても、つなげていくものが大切。少数だろうけど読める子の物など、今何が必要かを見極めて少ない予算を大事に使いたいと思います。指導要領など、ちょっとハードルも高いところがありましたがこれからの学習指導には必要になっていくんだと思いました。
- ・司書は自分の殻に閉じこもらないこと。
- ・「自分の殻にこもらないで！」という長谷川先生の言葉がありましたが、この研修が公立図書館と教委と学校図書館の横の連携が図られる第一歩になればいいなと思いました。

### 【視座を変えること】

- ・長谷川先生がおっしゃっていた「先生とは違う視点で見ることができる」のが強みであるというお話。(多数)
- ・「違和感」を強みに！

### 【教科・教員との連携】

- ・学習指導要領はどうやって手に入れるのでしょうか、と思った。司書にそれが必要と思われていない。
- ・指導要領について勉強しなくてはいけないと思いました。(多数)
- ・教育課程を理解する必要性、未来を見通す必要性
- ・授業支援の大切さ
- ・指導書と教科書を参考にすることの大切さ。(なかなかお願いできないので)
- ・前もって指導要領を読み、先生方がこの先何を求めて来られるのかを予測することが必要。
- ・以前から思っていたが、図書館を利用してもらうための営業は必要。レファレンスについてはメモでも取っておくことが大事。
- ・全体を通して、先生、子どもたちとのコミュニケーションが大切だと認識しました。
- ・レファレンスインタビューの大切さ。先生方と直接話さないと適した本が用意できない。(2名)
- ・授業支援のための具体的アプローチについてイメージを持つことができました。
- ・色々な情報を自分から得て先生方に発信し、図書館を利用してもらえよう準備したい。

### 【選書について】

- ・選書については毎年頭を悩ましています。その上で、読みたい本から読んでほしい本へとつないでいく中間の本が本校には少ないと思い、再度選書の組み立てもしたいと思います。
- ・選書の仕方を具体的に教えていただいてよかった。(多数)
- ・「選書のプロセス」はちょうど自分も今年やるつもりだったので大変助かりました。
- ・しおりを見て選書をするというのがとても参考になりました。今ある本の他にもあるのではないかと見直してみようと思います。
- ・選書について、改めて考えて実践したい内容でした。必要とされる図書館になるためやはり努力が必要。利用者のニーズに応じて各校に沿った取り組みをする。
- ・年間指導計画に沿って必要な本を選書することが大事。
- ・読みたい本と読んでほしい本、どちらかだけではダメで、その道筋を埋める本を選ぶことが大切。

### 【学校司書について】

- ・学校司書がやるべきことをしっかりやれば、学校図書館の価値があがる、その通りだと思いました。
- ・記録をしっかり取り整理しておく。(2名)
- ・学校図書館の役割を改めて感じる事ができ、やりがいのある仕事だと実感しました。(2名)
- ・学校図書館の司書の仕事(特に選書)については共感した思いがありました。

### 【宮澤講師への感想】

- ・宮澤さんの現場主義、児童のことを大切にしている強い思いが伝わってきました。全然できていない自分がダメダメでした。現実とのギャップも感じました。
- ・明瞭、志が高い。宮澤さんがパワフルで魅力的です。良い刺激を受けました。
- ・宮澤さんの司書に対する情熱や、子どもたちへの対応、選書の仕方。信念をもって働いておられる姿にとっても感動しました。(多数)
- ・(宮澤さんの)「自分から先生方に営業に行きました」というところがすごいと思いました。宮澤先生のようにズバズバ元気に頑張っていきたいなと思います。(同内容多数)
- ・宮澤さんが最後におっしゃった「立場的にできないことも沢山あるけれど、できることも沢山ある」という言葉。自分も甘えずに先生たちにしっかり売り込んでいかななくてはと思いました。
- ・宮澤先生のお話は「私のやりたいことそのまま」でした。わかっているもなかなかできない、手の付けられないところをはっきりズバッとした言葉で聞いて、ガンバロー！という気持ちとできるだろうかという不安感とが入り混じった複雑な気持ちです。

### 【子どもたちのこと】

- ・「自分が読みたい本にたどりつけるために間を埋めていく」のは、子どもにとっての喜びであり、司書にとっての喜びでもある。
- ・子どもたちはこれから予測できない社会に出ていくのだということ。(2名)
- ・子どもたちとの直接対話がやはり必要だという点

### 【ワークショップ・当日資料について】

- ・ワークショップのワークシート等は自分たちの地区の研修で役に立ちそうです。
- ・学校図書館 8 つのステップ。(3名)
- ・ワークショップは普段やらないし、自分の仕事のふり返りもできたので良かったです。
- ・少し中途半端になってしまったが、司書同志で話ができて楽しかった。

### 【感想・今後のことなど】

- ・4月から学校図書館の仕事がスタートし、一番悩んでいたポイントをわかりやすく説明してくれたのですっきりしました。(選書の視点とバランス)
- ・今を生きる児童の感覚に自分は合っているのか、日々研鑽が必要と思いました。「情報は生きる力」学校司書として社会にも目を向け、自分を育て、子どもたちに還元していきたいです。
- ・素晴らしい内容だったと思います。理想と現実悩むところではありますが、出来ることを地道にやっっていこうと思います。
- ・すべてが目からうろこでした。ひとつひとつ頑張りたいと思いますが、まずはコミュニケーションから取りたいと思います。
- ・自分が日々悩んでいたこと、孤独に感じたことが今日の研修ですっきりできた。実践してみたい。
- ・いつもアンテナを高くして、その中から自分にできることを実践していけたら良いと思いました。
- ・「自らの力」についてお話されたこと。そのために司書として、いつ、どんなふうに関わるのかを考えるきっかけになりました。
- ・やれることがまだまだ沢山ある。蔵書をもう少ししっかり見直そうと思いました。
- ・「一対一しかない」という言葉が心にしみました。

### 【その他】

- ・マスコミを利用したこと
- ・地域資料や児童生徒作品を収集していくこと(2名)
- ・人数が多くグループトークが聞き取れなかった。広さと人数を考えてほしい。場所が不便。駐車場完備の場所で開催してほしい。
- ・進行された県立の女性職員が素晴らしい。
- ・パネルトークが少し長いと思う。

## ■今後「ご自身にとって必要だと思う」研修はどのようなものですか

### 【学校図書館業務】

#### ◎環境づくり・児童とのかかわり

- ・教室に入れない子どもたちとのかかわり
- ・子どもに本が好きになってもらうには、どんな言葉や行動をするべきか。(2名)
- ・1年生でもわかりやすい配架、分類等、図書館の作り方

- ・学校図書館ならではの分類や配架の仕方
- ・本棚の配置、机や椅子などといった図書館環境の作り方（心理学も関係しているのではないか）
- ・学校の中で活きた図書館のつくり方

#### ◎教員とのかかわり

- ・司書教諭との連携、司書教諭を通してどう働くか。
- ・教科の先生とのコミュニケーション
- ・授業支援（2名）
- ・先生方への授業の提案

#### ◎調べ学習

- ・調べ学習、小論文テーマ作成における図書館、司書のあり方
- ・図書館を使った調べ学習の資料作りや手法
- ・調べ学習で活用されるような図書館のあり方
- ・調べ学習のための選書を行う際の根拠（限りある予算を活かすための確実な考え方）
- ・調べ学習をするとき、何が必要な資料か、どこまで支援するか。資料をどう使ってもらうか。
- ・調べ学習のリストをもっとしっかりとること

#### ◎個別のテーマ

- ・アクティブラーニング
- ・学校図書館と著作権
- ・「読書センター」機能について（2名）
- ・指導要領について
- ・『ポプラディア』の使い方の指導の仕方
- ・ブックトーク、ビブリオバトル
- ・選書（中・高学年）が難しいのでどうやっていいか課題です。
- ・今回の選書の研修をもっと時間をかけて学びたい（2名）
- ・情報ファイルの整理の仕方
- ・基本的な学校司書としての知識を学びなおしたい

#### 【基本的な図書館業務】

- ・司書の仕事の「いろは」
- ・除籍、廃棄について（2名）
- ・最新出版情報の入手方法
- ・郷土資料の利用の仕方
- ・自分の地域のことを知る研修
- ・レファレンス
- ・資料の収集方法
- ・基礎の基礎を教えていただきたい（本の登録の仕方、分類の仕方、ラベルの作り方等）

#### 【一般的な内容】

- ・小さな改善ができるような研修
- ・広い視野を持つように心がける
- ・時間が足りないので、時間配分について
- ・プライバシーについて
- ・プレゼンカ

【その他】

・「この本がおすすめ」年 1 回は聴きたい。下伊那教育会が実施しているが講師は県外から招いている。長野県の司書で同じようにトークできる人を育ててほしい。

・松本市の研修に参加させていただきありがとうございました。とても勉強になりました。松本市の学校司書さんに負けないように頑張ります。